

# 北里大学教職課程センター設立と 『北里大学教職課程センター教育研究』創刊の経緯

川 井 陽 一

北里大学教職課程センター副センター長

1963（昭和38）年、北里大学創立の翌年に設置された本学教職課程においては、従来、各学部が中心となり教員養成を行ってきた。そうした中、近年増加しつつある教職希望者の指導・支援体制の充実を目的とし、各学部・研究科間における連携を密にしながら、教職課程教育の充実及び発展を図るために、教職課程センターが構想されることとなった。

構想が具体のものとなり、理学部棟の一部を改装し、事務室と各教員の居室を一箇所にまとめた施設整備が行われ、2013（平成25）年4月、北里大学教職課程センターが設立され、運営が開始された。

教職課程センターの設立は、本学の教員養成に関し、一エポックを画したと行うことができよう。従来は離れていた各教員の居室が一箇所に集約されたことにより、教員間の相互交流が緊密となり、さらに専門の事務スタッフの配置もあり、事務部門と教員間の連携・協力が円滑に行われるようになった。それ以上に重要なことは、教職課程センターが、学生指導の核となる場として機能していることである。教職に関する相談等に関しては、教職課程センター（以下、「本センター」と表記）を訪ねればよいということは、学生にとって何よりの安心感となっている。本センターは、教職課程に関する諸業務の円滑な遂行のみならず、教員と学生の面談、学生の自習スペース、さらには、学生の会議の場としても有効に機能している。

本学では、相模原キャンパスにおいては、理学部、海洋生命科学部が「理科」の中学一種、高校一種免許、看護学部が養護教諭一種免許、さらに十和田キャンパスにおいては、獣医学部の動物資源科学科が「理科」の中学一種、高校一種免許、生物環境科学科が「農業」の高校一種免許の取得が可能となっている。そして、本学の教職課程在学の学生の割合を見ると、「理科」の免許取得を目指す学生が圧倒的に多い現状にある。

本学の実情を踏まえ、将来、理科教員として学校現場で活躍できるためには、実験についての理解及び技能の習熟が必要との考えに立ち、実験指導を行う場として本センターの活用を図りたいとの要望を大学側に提出した。その要望を大学側が受け入れ、平成26年度には、本センターの改装が行われることとなった。会議スペースを改装したことにより、会議等への活用のみならず、理科の実験指導を行うことのできる施設となり、活用が図られている。

このような大学側の後押しを受けて、教員側も教職希望者の希望実現を図るために、指

導体制及び指導内容の一層の充実に努めている。従来の指導に加えて、平成26年度スタートの学生による「自主ゼミ」への支援、さらには、本年8月に小学生を対象に学生が企画、運営を行った「夏休み子ども実験教室」に向けての指導、助言等はその一例である。

ところで、三年目を迎える本センターにおいては、本センターにおいて取り組んできた成果を中心に対外的な発信を行うという趣旨から、いわゆる紀要の発行に向けての検討を行い、『北里大学教職課程センター教育研究』創刊の運びとなった。

『北里大学教職課程センター教育研究』創刊が、本学教職課程の充実のみならず、教職課程教育全般に資することができることを願っている。